

浜岡原子力発電所 2号機 排気口ダストモニタの警報点灯について(続報)

2019年3月12日

【今回のお知らせする内容】

調査結果

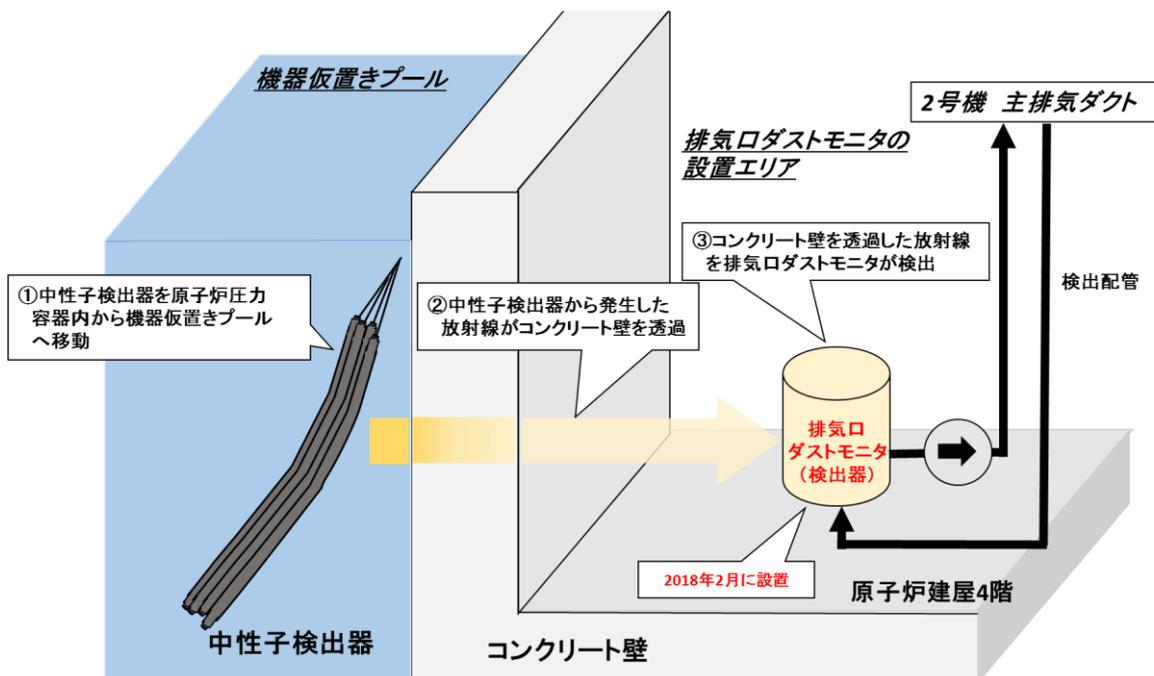
当社は、2019年3月7日の2号機「排気口ダストモニタ放射能高」の警報が点灯した原因を調査してきました。

この結果、本事象は外部への放射性物質の放出を伴う事象ではなかったことを確認しました。

警報点灯の原因は、廃止措置で実施する原子炉圧力容器内の除染準備作業において、過去の運転期間中に放射化された中性子検出器を原子炉圧力容器から機器仮置きプールへ移動した際に、中性子検出器から発生した放射線が機器仮置きプールのコンクリート壁を透過し、排気口ダストモニタの検出器がその放射線を検出したことで、当該警報の点灯に至ったものです。

排気口ダストモニタは、1,2号機の共用排気筒の解体撤去に伴い、2018年2月に現在の位置に設置したものです。本事象を踏まえ、今後、1,2号機における高線量物品移動時の情報共有およびモニタ指示値の監視について強化を図ってまいります。

注 1 中性子検出器とは、原子炉圧力容器内の中性子を検出する計器です。原子炉圧力容器内に設置されているため、中性子検出器は放射化されており、放射線を放出しています。



排気口ダストモニタ警報点灯の原因
(イメージ図)

【これまでのお知らせした内容】

(2019年3月7日お知らせ済み)

発生号機	2号機(廃止措置中)
発生年月日	2019年3月7日
状況	<p>2019年3月7日14時38分、2号機の中央制御室に「排気口ダストモニタ(注2)放射能高」の警報が点灯しました。2号機排気口ダストモニタの指示値を確認したところ、約8cps(注3)であることを確認しました。(通常値:約1.5cps、警報設定値:7.5cps)また、指示値は同日9時30分頃から上昇していることを確認しました。</p> <p>このため、2号機に係る作業をすべて中断しました。その後、排気口ダストモニタの指示値は通常値に復帰し、当該警報は消灯しました。</p> <p>なお、発電所敷地内に設置しているモニタリングポストの指示は通常の変動範囲内の値を指示していることを確認しました。</p> <p>また、2号機排気口ダストモニタのフィルタに付着した放射性物質の核種分析を実施した結果、人工放射性核種は検出されませんでした。</p> <p>今後、原因を調査し、適切に対応してまいります。</p>
放射能の影響	本事象による外部への放射能の影響はありません。
お知らせ基準	運転情報「表1-5 気体状又は液体状の放射性廃棄物の計画外の排出があったとき(排出量が原子炉等規制法に基づく報告基準に至らない場合)、あるいは排気筒モニタ、放水口モニタまたはモニタリングポストの警報が点灯したとき、または排気筒等のガスサンプリングで放射性物質を検出したとき」に該当します。

注2 ダストモニタは、建屋内の放射性粒子濃度を測定している装置です。

注3 放射性物質の濃度は、カウント毎秒(count per secondの略)という単位で表示しています。これは、1秒間に測定された放射線の数を示しています。

以上